

小田原ガイド協会だより

— O G O 第96号 —

NPO法人
小田原ガイド協会

小田原市城内 3-22 (〒250-0014)
TEL.0465-22-8800/FAX.0465-22-8814

<http://www.odawara-gaido.com>



小田原ガイド協会が
誕生してから
25年が過ぎました



▲平成九年四月一日「開業式」

▶令和五年四月一日「始業式」

*中面に別冊『25年のあゆみ』を差込

四半世紀の節目から未来へ：

堀池衡太郎

平成21年。私が入会したのは、NPO法人登記から三年目で、従来の予約&誘客ガイドに加え、レンタサイクル業務・回遊バスガイドがスタートした頃です。

「ボランティアにもかかわらず収益業務？」との声もありましたが、小田原市・事業協会・観光協会の方々の支援もあり、以後順調に推移しました。その後企画ガイドの充実に力を入れ、小田原市全域十周辺地域を視野に、独自コースの開発・実践に日々取り組むことで、協会員百名体制を維持してきました。

そして現在。近年はコロナ感染症禍での活動でした。ただ最近では回復傾向にあります。しかしこの三年で「旅の形態」が変容し少数個人客の増加が顕著になりました。故に昨年から「質の高いガイド」をめざし密度の濃い研修会等を実施、実践ガイドで効果を上げています。今年度も引き続き、協会員には、学びの姿勢で知識向上を計り「おもてなしの心の堅持で充実のガイド活動」と提唱しています。

(小田原ガイド協会会長：談)

企画ガイドⅠ

阿弥陀寺企画ガイド

初めてのガイドを終えて

一班 石田恭士

今年は、この企画ガイドは一班が担当することになり令和五年一月一〇日十八名、一八日三十名の参加者を得て実施された。

班員の割り当てが決まると一致団結して、企画ガイド本番に向け準備を進めた。

この企画ガイドは主に紫陽花寺から椿寺へ変わりつつある阿弥陀寺や住職さんの琵琶演奏の鑑賞である。椿寺へ変わる中で、著名人や一般の方の椿が植栽されていたが、まだ、成長途中の株もあり、花をつけるのはもう少し先になりそうだ。

箱根登山鉄道の湯本駅をスタートし、終点は河鹿荘にある馬車鉄道・電気鉄道の湯本駅跡までの約



水野賢世和尚の琵琶演奏

四時間のコースである。

湯本駅をスタートし、阿弥陀寺までの女坂を登り途中箱根七湯の由来などを説明し、阿弥陀寺に着した。上り坂が続く中でお客様も疲れたことと思われる。お楽しみの琵琶演奏までの空いた時間を利用して阿弥陀寺の由来など説明した。何といってもここは皇女和宮のゆかりの寺である。その後お客様は、住職さんの琵琶演奏を堪能され、皇女和宮の黒本尊を参拝し、後半に向け男坂を下り、終点まで向かった。

帰路は阿弥陀寺の山門や、六地藏などを巡り、国道一号に歩みを進めた。国道に出ると皇女和宮ゆかりの旅館環翠楼が見えてくる。近くにある福住楼も箱根を語る上で大事な場所だ。国道を歩きながら、土木遺産である千歳橋、函嶺洞門、旭橋、荻窪用水の取水口そして温泉発祥の地などをご案内し、いよいよ河鹿荘にある湯本駅跡に到着し、ガイドを終了した。お客様との会話を楽しみなが有意義な時間を過ごすことができた。お客様は女性が多く、歩き方は良かったか、説明は大丈夫だったか、色々気になる点はあったが、お客様に喜んでもらえたことが嬉しかった。

企画ガイドⅡ

皆春荘、古稀庵

孤高の山縣公と貞子夫人

二班 森住健次

小田原桜は偉い。人々のやきもきする気持ちをA1で察知し、当日まで行儀よく待って、ある所では、満開。花吹雪も見える場所も用意してくれた。

沢山のお客様が参加され、班ごとに実施する初めての企画ガイドはよい天気と穏やかなテンポで進み、皆さんが大いに満足されている様子であった。

松永記念館、皆春荘、古稀庵、松本剛吉邸、桜の西海子小路などなどをゆつたりとまわり、邸内にもあがって、その時代の匂いも感じられた様にもみえた。その中でも、皆春荘

と古稀庵は他に類を見ない庭園と建物もさること乍ら、終焉の地として没するまで住まわれた山縣有朋公と最後



松永記念館入口と名残の桜

まで支えた吉田貞子夫人の人物像と動乱の時代に生きた「小田原の山縣夫人」という貞子夫人にフォーカスし、史実とあまり違わない範囲でお客様に話してみたい。

長州藩の「槍の小輔」から身を起し、軍人としてある時は政治家として混乱する時代の先頭にたち、世に言われるダーティな面もあるものの、山縣は自派の子分には恵まれ乍ら家庭的には極めて不幸だった。実子は七人中六人まで早世し、明治二六年には友子夫人を失った。貞子夫人は出自がはっきりとしない面があるものの、そんな孤高の有朋公を陰でささえた。その舞台が主に皆春荘で一番安らげる場所であり、その心境をよんだ句が：

打いだす相模の海を池にして
あふぐ箱根は庭の築山

企画ガイドIII

おかめ桜と

根府川の海

三班 吉岡雅史

根府川駅がスタート&ゴール。おかめ桜や海の眺望を楽しみながら、景勝地を巡る約五・五キロのコースです。三月九日46名、一三日は35名参加されました。一回目は、天候に恵まれ、根府川駅前、宮本園、江之浦テラス周辺では、薄紅色の満開のおかめ桜に感嘆の声があちらこちらから聞こえてきました。二回目は、出発時から雨が降り始め、安全第一で終始雨に濡れてのウォーキングとなりましたが、終了時に「ありがとう」と元氣な声をかけられ安心しました。相模湾を見渡す眺望は絶景です。見晴台では、リビエラ海岸にたとえられる切り立つ断崖と小さな入江が続く複雑な海岸線の風景に、岩泉寺辺りからは、青い海と赤い白糸川橋梁のコントラストの美しい景観に、皆さん見入っていました。かつてこの地に魅せられて、詩人茨木のり子は青春の記憶から根府川の海を謳い、郷土の詩人福田正夫は愛する江之浦の海を歌いました。子供の頃の最初の記

相模湾に映えるおかめ桜



憶に導かれて、杉本博司さんは江之浦の地に「江之浦測候所」を建てました。根府川関所跡、人車鉄道、軽便鉄道駅跡、百年駅舎根府川駅、東海道線、新幹線は、江戸時代からのこの地を行き交う人々の様子や歴史を、鹿島踊り、道祖神、庚申塔などは、この地で受け継がれてきた伝統や信仰を、今に伝えてくれます。天下人にならんと豊臣秀吉が小田原合戦で北条氏を包囲する最中、茶の湯で参陣武將を労ったとされる「天正庵」跡では、時を遡り戦国の世に思いを巡らせました。ゴールでは、コースは見所がたくさんあったねとの声が聞かれました。班別の企画ガイドという初めての試みは、三班の皆さんの参加、協力で、全員参画の趣旨に沿い、成果があったと思います。来年も継続を望みます。

企画ガイドIV

家康アラカルト& 小田原滞陣の百余日

四班 金子敏道



今井陣場と東照宮

今回の班別企画ガイドは、家康関連で、二つのコースを用意。第一弾として「家康小田原での百余日」を開催。コースは宅地化が進み、遺構として確認出来ない箇所があり、お客様への丁寧な説明を心掛けて出発しました。始めに、北条氏政・氏照の墓所の見学、墓所からの階段を下りてきた女性のお客様が「夫人の方のお墓が大きいね」とおっしゃり思わず納得。次に甲州道から井細田口を過ぎ、徳川軍団の陣形を説明。家康本陣の今井陣場で東照宮を見学。後、柳川邸内に、当時の遺構を伝える手掛りの土塁跡にお客様はしきりに写真を撮っていました。奥平陣場では、当時と現在の地盤の説明、次の山王神社で、江戸に国替えとなった家康の心境から関東を治めた話をした時に、身を乗り出して聞いていたお客様の目が印象的でした。お客様は、この企画に対し満足したのではと思いつながら、蓮上院土塁、中新馬場を通り、小田原駅に到着。第二弾は「家康アラカルトイン小田原」です。風祭から東海道の一里塚へ、そして家康の嫡男信康の供養寺である萬松院を訪れました。次に家康が町づくりの参考にした小田原用水取水口に向かいました。小田原北条氏の時代にすでに生活用水路があったことにお客様は驚かれました。小田原用水をたどりながら青木石濱にある東照宮を見学。家康の重臣で小田原藩主であった大久保氏の菩提寺である大久寺では、十月から三月まで咲き続ける御会式桜を見ることも出来ました。最後の無量寺では家康公夫婦像を拝見し、参拝記念の御朱印までいただき、お客様は大変喜んでいました。初めての企画ガイドが無事終了しお客様から温かい言葉も頂き、最後まで説明を聞いて頂いたお客様、様々な助言をしてくれた諸先輩に感謝です。

シリーズ 家康紀行 ②

そこに忠世公がいた！

長篠古戦場訪問記 後編

橘川 健人

「承前」今回は医王寺から途中寒狭川（豊川本流）の「長篠橋」を渡り設楽原へ――

二・設楽原古戦場

橋は長篠城から続く比高30～40メートル有るかという断崖上に架設されている。正にこの崖こそ「中央構造線」である。もう一本下流の「長篠本橋」付近では中央構造線の露頭が見られるが、残念！今日は時間を優先する。「長篠橋」からしばし登りが続き、平坦な台地に到着すると「大海駅」前。駅前から山側のルートを行く。長い登り坂を越え、さらにもう一山越えると勝頼が決戦の日に陣取った信玄台地北端に到着した。目の前に徳川軍が陣取った弾正台地が見える。目をこらすと復元した「馬防柵」も見える。ちなみに信玄台地と弾正台地の距離は僅か1キロ、台地の標高はそれぞれ約一〇〇メートル、両台地の中間に「連吾川」が

流れている。その幅五〇〇メートル長さ2キロの谷間が設楽原という事になるが、当時大会戦を行うのには丁度良い原野であった。連合軍は弾正台地の麓に馬防柵を築き、連吾川が平野部に到着する付近ではかつての領主「設楽氏」の館群を要塞化し、更に南に回り込むようにする敵に対しては豊川の断崖で進軍不可能という地点まで防衛戦を構築していた。信玄台地を下り「連吾川」を渡ると佐久間信盛と馬場信春が取り合いした「丸山」がある。丸山は自然の小山で設楽原北端にあり南側の設楽原が一望出来る。現在北側には設楽原を東西に貫くように新東名道路が建設されている。丸山から馬防柵までは連吾川沿いに下って十五分で到着する。所謂この辺が「竹広激戦地」大久保兄弟が先陣を切って大活躍した場所だ。忠世軍は三百丁の鉄砲を持ち、柵の外で武田四天王の山県軍と大激戦を繰り広げた。信長公はこの様子を茶臼山から見て「金の揚羽蝶と黒餅の指物は誰か」と問い大久保兄弟を激賞したと伝わる。その馬防柵には「徳川軍」仕様と「織田軍」仕様がある。徳川式は虎口が嚴重に作られ、こんなところにも信長と家康の性格の違いが感じられて面白い。



▲長篠合戦図の大久保忠世公（金の揚羽の指物）青囲みの中、馬防柵外、川は連吾川



馬防柵と家康本陣の弾正台地

馬防柵の見学が終わり再び信玄台地上にある「設楽原歴史資料館」に向かう。この火縄銃コーナーと長篠合戦図（模写・作成）は必見だ。合戦図の忠世軍は連吾川を挟んで馬防柵の外に出て最前線に布陣している。そして「三州長篠合戦記」によると信長の命令通り柵から大きく離れず、武田軍が攻めて来ると柵内に引き、また挑発するように柵外に出、山県軍に大打撃を与えたのである。

を歩いた体に応えるが、頑張った山道に行く。すると雑木林の奥の開けた場所に到着する。そこが家康本陣跡である。現在本陣跡から設楽原は見えないが、信長本陣の茶臼山（標高一五〇メートル）が見える。当時茶臼山からは戦場全体が見渡せたそう。僕は最前線で活躍した徳川軍に対して、配下の佐久間信盛軍が命令を守らず、馬防柵の外の「丸山」で劣勢に陥ったことを見ていた信長の怒りを感じた。さて五月二一日の大会戦であるが、武田軍も朝から数度に渡り大攻勢を仕掛けたが、名高い武将達が次々に討死し、昼頃に態勢が決し連合軍の大勝利となった。そして戦後の論功行賞で忠世公が二俣城主となり、信康事件に繋がって行く事と、数年後の武田家滅亡に繋がる歴史の残酷な事実を思いながら、陽が傾いて寒くなった家康本陣跡を最後に、僕は三河東郷駅に向かった。

ハイウェイ貫く原で戦いし

武士どもの思いをぞ知る

訪問日：二〇二三年一月一〇日

*主な武将の合戦時年齢

信長42歳・秀吉39歳・家康33歳
忠世44歳／勝頼30歳・昌景47歳

一 最近の大地震と 地震の発生する場所

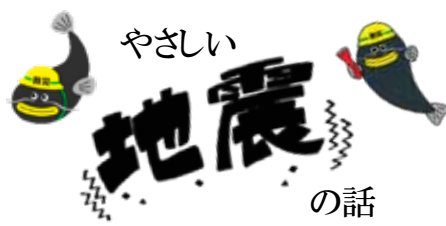
先ごろトルコでマグニチュード七・八の大きな地震がありました。ユーラシアプレートとアフリカプレートに挟まれたトルコの断層に大きなヒビが入ったことに原因があるようです。日本も全く同じ状況にあります。どこで地震が起きても不思議ではありません。最近では、東京と神奈川を震源地とする地震が起きています。地震が起きていないことは安心できることではありません。逆に大地震の発生確率を増している不安要因です。百年前の関東大震災となると体験者はほぼ皆無で、なかなか理解しにくい点が多々あります。地震の発生場所はどこであったのか？規模は？震度は？また津波はなぜ小さかったのか？。最近の地震と比較しながら考えてみたいと思います。

二 関東大震災について

関東大震災は地下二十五キロメートル、マグニチュード七・九、震度七と記録されています。関東大震災をはじめ日本の大地震は、

すべてが震度七で最高の震度階級です。震度七になると、人は這わないと進めない、家具は移動して倒れ、建物の壁は落下し、ブロック塀は崩れます。家の一部は倒壊するか、時間によっては火事が発生します。

関東大震災を起こした岩盤のズレは、フィリピン海プレートと北米プレートの境界でした。最初に



真木 和男

今年は大正 12 年の関東大震災から百年目の区切りに当たります。そこで、4 回にわたり〈地震の仕組み〉〈関東大震災〉〈小田原の地震〉〈防災〉について連載いたします。

第二回目は

関東大震災

についてお話しします

り、曾我山をだんだんと田島の方へ進んでゆくのが見えた」と記されています。

三 関東大震災と 東日本大震災の比較及び 今後の大地震について

二つの地震はともにプレート境界型地震です。関東大震災の死亡

者は約十万人。内訳が火災九万人（全体の九割）、家屋倒壊一万八、津波三百人となっています。一方、十三年前の東日本大震災の死亡者は約二万人。内訳が津波一万九千人（全体の九割）、火災と家屋倒壊八百人でした。ほかに、特筆すべきは原子力発電所の事故や、震源地から遠く離れた浦安などの液化現象や、関西の大都市まで影響した地面の表面を伝わる表面波などでした。表面波は時間とともに高層ビルの揺れを増幅させる新しい被害でした。高層ビルの被害は関東大震災では起きませんでした。が、今後の東京や神奈川の地震では大きなパニック要因になりま

す。建物の鉄筋コンクリートへの変化は、倒壊したら被害を増加させるでしょう。

四 関東大震災は 津波の死者が少なかった

関東大震災が津波の被害をほとんど受けなかった理由は、フィリピン海プレートの位置にあります。東日本大震災の原因となった太平洋プレートは海底にあります。一方、フィリピン海プレートの一部は丹沢や伊豆半島のプレート移動により陸上になっているため、世界的にも稀な地形です。現在のフィリピン海プレートと北米プレートの境界は御殿場線に沿った位置にあり、海底ではなく陸地のために津波が起きにくいわけです。津波が相模湾で発生しても、相模湾が深海であるため津波のスピードが遅くなり、津波の死者が少なかったと思います。



リレーエッセイ／わたしの城旅 ②⑦

松江城は突然に?!

森田 浩行

令和五年が明けた頃「今年の初詣は出雲大社に行ってみよう」とカミさんの一
言。島根に行けば松江城を見ることが出
来ると思いながら、距離的に遠く初詣に
は難しいだろうと思っている内に何故か
段取りが整い、「島根縁結び空港」に降
り立ったのは未だ少し雪が残る一月中旬
でした。出雲大社へは直
通バスがあり「縁結び」
には縁のない者でも「日
本中の神様の集まる大
社」なら願い事の御利益
があるだろうと今年の初
詣は力を入れてお詣りを
させて頂きました。



翌日は松江城に、最初
に向ったのはお城まで行
く最適ルートと言われる「堀川めぐり」
の乗船場、八層ほどの小船には冬に欠か
せない炬燵があり、冷えた体を温めてく
れます。船頭さんから「低い橋の下を通
るとき屋根が下がってくるので頭をぶつ
けないように」との説明があり、炬燵に
潜り込むようにして上方を見上げると松

江城の天守が迫ってきました。

大手門広場で下船、松江城に入ると高
さ一三層の巨大な石垣が目に入ります。
石垣は主に打込接と書かれています。
が、野面積みの石垣も見られます。階段を
上りきった本丸には現存する十二天守の
一つで、国宝に指定された松江城の望楼
型天守が現れます。城の外観の美しさに
比べ内部は慶長十六年に築城された当時
の趣が残り、急勾配な階段、石落とし、
鉄砲狭間などが戦うお城の姿を印象付
けています。最上階は壁のない三六〇度の
展望が広がり、宍道湖や遠く雪の被った
大山を望むことができ、その景色を眺め
ながら四百年以上の歳月を乗り越えてき

たお城のオーラのよう
なものを感ずることが
出来たような気がしま
した。

今回、訪れた島根県
には西に神話時代に思
いの馳せる出雲大社、
東に戦国時代の松江
城、その間には「最古
の湯の一つ」と言われ
る玉造温泉など、観光客を飽きさせない
コンテンツが数多くあり、再度ゆつくり
訪れたくなる魅力的な観光地でした。カ
ミさんの唐突な言葉から始まった一泊旅
行でしたが、松江城を堪能できたことは
出雲の神々ならぬ我が家の「カミ様」の
御利益なのかも知れません。

【2023年企画ガイド予定】 申込み・お問合せ 0465-22-8800 ・詳細は小田原ガイド協会ホームページで

企画名	月日	歩行距離	コース概要
家康公・小田原滞陣の百余日 徳川陣場を巡る	6/3・4・10・11・ 17・18・24・25	約4km	JR 小田原駅～氏政氏照の墓所～井細田口～酒井陣場～ 徳川陣場～奥平陣場～蓮上院土塁～ JR 小田原駅
見頃のイワタバコ 箱根堂ヶ島散策	6/16・20 (金)・(火)	約4.5km	箱根登山宮ノ下駅～熊野神社～イワタバコ群生地～ 溪谷ウォーキング～八千代橋～富士屋ホテル
老舗名店と 小田原あんこ旅(東コース)	7/15・19 (土)・(水)	約3.5km	JR 小田原駅～駅前通り～お堀端通り～三の丸土塁～ 国際通り～かまぼこ通り～鈴木製館所～なりわい交流館
デザインマンホールと町名碑 おだわら今昔街かど散歩	8/18・19 (金)・(土)	約3.5km	小田原駅西口～UMECO 前～本丸広場～箱根口 ～なりわい交流館～かまぼこ通り～錦通り～ おしゃれ横丁～小田原駅東口

【3月以降の退会者】

中谷 清さん
小林 一夫さん

ありがとうございました

【編集後記】

■六月一日から、班の再編
制と新会員の本格的なガイ
ド員活動が始まりました。
毎年のことながら、学生時
代のクラス替えや会社の人
事異動を思い出しワクワク
ドキドキします。

また、ようやくコロナ禍
からの解放もあって、観光
バスや海外からのお客様も
増加しています。ガイド協
会活動で、様々な人と出会
う機会が得られることを改
めて実感します。気持ちも
新たに、協会活動に取り組
みたいと思います。

今回の「OGGO 第96号」
には別冊『25年のあゆみ』
を挿入しました。ガイド協
会発展の歴史を今一度振り
返ってみてください。そし
て、今後もOGGOへの原稿
提供等のご協力、よろしく
お願いいたします。(Y)

【編集委員】

磯崎知可子
柏木由美子 上田信一

令和5年度賛助会員

賛助会員のお店は皆様をお待ちしています！

賛助会員の皆様にはガイド協会の活動に賛同しご支援を頂いています。

賛助会員の詳細は小田原ガイド協会HPをクリックしてください。

<http://www.odawara-gaido.com>

☎ 0465-

☎ 0465-

朝日ファミハルネ店 23-3100	せきしん運輸 42-7375
鰺 竜 北 條 080-5465-0066	田 毎 24-3030
伊 勢 屋 22-3378	田中屋本店 22-5545
ういろう 24-0560	だるま料理店 22-4128
魚市場食堂 23-3818	長 一 商 店 42-0359
江 嶋 22-1661	欄干橋ちん里う 22-1547
小田原種秀本店 22-6238	露木木工所 22-5995
小田原箱根商工会議所 23-1811	東 崑 庵 22-4657
籠 清 23-4530	鳥 かつ 楼 22-2078
籠 常 商 店 23-1807	菜 の 花 24-5688
柏木美術鋳物研究所 22-4328	箱根屋酒店 22-6416
カネタ前田商店 23-4741	小田原早川漁村 24-7800
甘味処 鎌 倉 20-4475	平 井 書 店 22-5370
居酒屋 金 時 23-0721	松崎屋陶器店 24-2479
食事処 幸 繁 22-5155	マツシタ靴店 24-2233
グリル 木の实 22-2912	万 葉 の 湯 23-1126
さがみ信用金庫 24-3161	柳屋ベーカリー 23-2342
志村屋米穀店 24-2224	山市湯川商店 22-5637
杉 兼 商 店 22-5051	山 安 21-1137
鈴木製館所 22-3520	R Y O 20-0077
鈴廣かまぼこ 22-2333	

【50音順】

小田原ガイド協会だより

特集『25年のあゆみ』

NPO法人
小田原ガイド協会

小田原市城内 3-22 (〒 250-0014)
TEL.0465-22-8800/FAX.0465-22-8814

<http://www.odawara-gaido.com>

過去の記念誌

平成 14 年 12 月 18 日発行
発行責任者：山田 昇

五周年記念誌

5

小田原ボランティアガイド協会

平成 19 年 4 月 10 日発行
発行責任者：立木 繁

十周年記念誌

10

NPO法人小田原ガイド協会

平成 24 年 12 月 15 日発行
発行責任者：榎本 保美

十五周年記念誌

15

NPO法人小田原ガイド協会

平成 30 年 1 月 31 日発行
発行責任者：堀池 衡太郎

二十周年記念誌

20

NPO法人小田原ガイド協会

【歴代会長】

- | | |
|----------|------------|
| ① 山田 昇 | 平成 9 ～ 17 |
| ② 立木 繁 | 平成 18 ～ 21 |
| ③ 榎本 保美 | 平成 21 ～ 24 |
| ④ 楓川 剛徳 | 平成 25 ～ 26 |
| ⑤ 堀池 衡太郎 | 平成 27 ～ |

小田原ボランティアガイド協会 設立趣意書

小田原市は「歴史と文化のかおる都市」として、城郭を始めとして諸史跡や街並などの整備が進みつつあり、大変喜ばしいことと思っております。

交通機関の利便性の向上により小田原は京浜地帯への通勤圏となり、市外からの移住者も増え、教育環境の変化とあいまって、小田原を熟知していない住民が増加しています。

このような環境の中で、平成六年にシルバー大学が開設され、私達は歴史観光学科で三年間学び、小田原の歴史・文化・自然が観光資源として価値の高いものであることを再認識しました。又、ガイド実習をして、お客様に小田原を知っていただくことの喜びや、心のふれあいの大切さ、楽しさを知ることができました。鎌倉市、長浜市、柳川市等、観光ボランティアガイドを成功している先輩都市があることも、私達に勇気を与えていただきました。

このような動機から、平成九年四月に「小田原ボランティアガイド協会」を設立し、先ず私達第一期卒業生がこの任にあたりスタートしたいと決意しました。

平成九年三月一五日

平成9

・バス駐車場の業務を受託
三人体制で実施

・10月銅門復元完了

平成10

・バス駐車場・歴史見聞館業務を受託
五人体制で実施

・4月歴史見聞館・銅門一般公開

平成11

・バス駐車場・歴史見聞館業務を受託
六人体制で実施

平成12

・バス駐車場・歴史見聞館業務を受託
七人体制で実施
(平成18年度まで同体制)

・11月事務所移転(下記写真)

平成13

・副会長田中美代子著
「小田原文学散歩」出版祝賀会



平成9年4月 藤棚事務所開き



田中美代子氏



平成12年3月 企画ガイド「長興山紹太寺」



復元された小田原城銅門(平成9年10月)



平成12年11月 事務所の移転(藤棚→二の丸)



ガイド風景(左:藤棚/右:下曾我)

【記念誌再録(抄)】

五周年対談

小田原ガイド協会副会長

木村達夫／田中美代子

田中 先ず五年という年月はどう思われますか？

木村 もう五年というか、まだというべきか？

田中 設立のころと、五年経ったいま、何か変化があったと気づかれたことがありますか？

木村 生意気かも知れないけれど謙虚さが足りないように思う。

田中 初心忘れずということは常に自戒していますけれど、おっしゃる通り、しばしば感じることもあります。

木村 研修旅行で京都にいきまし

たね。大徳寺塔頭を訪ねたとき大仙寺の有名和尚さんの話しが忘れられない。ボランティアガ

イドとは奉仕をさせていただく事で、ありがたいう感謝の

気持ちを忘れてはいけないと。われわれは市からの業務委託も受

けるなど、とにかく恵まれている。恵まれていることに安住せ

ずにモチベーションの高いボランティアの集団でありたい。

田中 木村さんとも何回か全国大会にご一緒したこともありまし

たが、今年別府で開催された大会で改めて感じたのですが、八

百ともいわれるボランティア団体の中で、恐らく一番恵まれて

いると実感しました。

平成14

- ・12月「創立五周年祝賀会」開催
「創立五周年記念誌」発行

平成15

平成16

- ・10月神奈川新聞社より
「神奈川地域社会事業賞」受賞

平成17

- ・5月NPO法人
設立検討委員会発足
- ・7月レンタサイクル業務開始

平成18

- ・4月NPO法人登記申請受領
- ・同月NPO法人
小田原ガイド協会発足
- ・同月設立祝賀会開催
- ・*小田原城
「日本百名城」に選定



レンタサイクル業務開始（平成17年7月）



創立5周年祝賀会（平成14年11月）



ガイド風景（左：塔ノ沢阿弥陀寺／右：石垣山一夜城）



平成16年10月23日
神奈川新聞社より
神奈川地域社会事業賞
を受賞



研修会「後北條氏の中世城郭・足柄城跡」（平成17年11月）



小田原城跡「隅櫓と隅櫓橋」（平成16年3月）

【記念誌再録（抄）】

NPO法人設立の経緯

NPO化検討委員会
委員長 笹田昌邦

当協会は平成九年四月シルバール大学歴史観光学科卒業生二十四名がボランティアガイドを立ち上げて以来、年々会員数も増え約百名の大所帯になりました。また社会や経済環境の変化、行政当局や市民、観光客の価値観やニーズの多様化に対応する為にも、法人化して行政や地域社会に認知された信頼される組織団体になる必要性が出てまいりました。

そこで平成一七年五月の定期総会において「NPO法人検討チーム立ち上げ」の議題が提案され了承されました。これに基づき、NPO化検討委員会が六名で発足し、六月から八月まで四回にわたる委員会を開催し、NPOに関する勉強と今後の進め方を協議しました。：（略）：

九月には全会員に対する「NPO組成にかかわる経過説明会」を三回にわたり行い、全会員に周知徹底を図りました。一一月には臨時総会を開き、NPO法人への組織替えを提案し、賛成多数により設立を決議しました。

こうして：（略）：四月三日に横浜地方法務局小田原支部へ法人の登記を申請、これが受理されて始めてNPO法人として正式に発足したわけです。

『10周年記念誌』より

平成19

- ・バス駐車場・歴史見聞館
レンタサイクル業務を受託
八人体制で実施

- ・1月小田原市より
「小田原市民功労賞」受賞

- ・12月「創立十周年記念誌」発行

平成20

- ・6月関東商工会議所連合会より
表彰される

平成21

- ・3月馬出門開門
- ・9月アジアソウのウメ子死亡
(推定62歳)

平成22

- ・3月11日東日本大震災

平成23

- ・ホームページ開設
- ・箱根ジオパーク推進協議会設立
- ・ガイド養成講座運営委員会設置
- ・5月「ガイド養成講座」開講



平成19年度入会式 緊張の新入会員



小田原市長より表彰される立木会長



平成19年1月8日
熱海市より
平成18年度
小田原市民功労賞
を受賞



協会HP画面(令和5年5月現在)



還暦を迎えた象のウメ子(平成20年)



復元された馬出門



西さがみ連邦観光交流事業
(体験ウォーク・玉簾の瀧)



教育支援
(地元の子どもたちへのガイド)



石垣山城「箱根ジオパーク」認定
(岩石の説明をしつつ石垣山へ)

【記念誌再録(抄)】

10年ありがとう

NPO法人小田原ガイド協会
顧問 山田昇

当番日の体験を一言。

去る三月二二日は私の当番日にあたり、午前中は藤棚駐車場の担当でした。平日のこととしてバスの入りは遅く10時40分に「台湾」次にオーストラリア「台湾」次に三重県「台湾」13時に「台湾」と合計七台の内五台が「台湾」国内のお客様は三重県の一台中のみ。たまたまの出来事ではありません。年間八百台を超える台湾のお客様が、依然として東京、神奈川を抜いて第一位を維持しています。

今夜の宿泊地はどこですかの調査では、箱根、河口湖、西伊豆、箱根、須走、須走となりました。三、四年前までは百分河口湖を利用していました。私達が業者に河口湖を紹介したことに端を発し、河口湖は集客の激減を台湾客で補ってきたのですが、数年を待たずに、伊豆半島、箱根など周辺地域に分散が始まっています。つくづく外国人客の受入れの対応の難しさを感じさせられます。私達も英語ガイドの養成を急がねばと痛感しています。

さて、神戸淡路大震災の自然災害発生時によせられた民間活力は、目を見張らせるものがありました。なにも起きていない平常時の活動を継続することこそ、これからの重要な課題と思います。

『10周年記念誌』より

平成24

- ・バス駐車場・歴史見聞館レンタサイクル業務（小田原城内）
- ・駐車場の有料化に伴う業務夜間延長業務年末延長業務

- ・12月「創立十五周年記念誌」発行



養成講座 講義の様子



養成講座 講義の様子



養成講座 講義の様子



新人研修の様子

平成25

- ・7月棚駐車場有料化管理者が小田原市観光協会へ移行
- ・「駅からガイド」実施

平成26

平成27

- ・小田原城天守閣平成の大改修（平成27年7月～翌年4月）
- ・天守閣休館に伴う銅門土日祝日公開に協力
- ・12月小田原駅東口駐車場施設内レンタサイクル事業開始

平成28

- ・4月14日熊本地震
- ・銅門（櫓内）
- ・土・日・祝日公開に協力
- ・10月八王子市・寄居町と姉妹都市盟約を締結



防災訓練の様子

【記念誌再録（抄）】

十年の去来

NPO法人小田原ガイド協会
会員 菅原誓子

私は、ガイドの時一期一会を大切にしています。昨年こんな事がありました。三月四日、仙台からお越しの七〇代後半の女性の方達を、小田原城、街中、松永記念館まで一日ご案内しました。その日の宿泊はヒルトンホテルという事なので「仙台でお会いしましょう」と約束してバスの乗り場までお送りしました。そのちょうど一週間後、東日本大震災が起きました。激しい揺れの後、彼女の電話と

携帯電話に連絡しましたが、通じませんでした。四日後の夜遅く仙台から電話がありました。やっと電気がつきテレビで被害の大きさを知ったとの事。遠くに住む私達の方がはるかに早く惨状を目にしていたのでした。何回か電話のやりとりがあり「新幹線が復旧したからぜひこの惨状を見ていただきたいので出掛けてきませんか」とお誘いを受けました。復興してからではなく今を見ていただきたいと、切実に訴えていました。新幹線が復旧すると電車に飛び乗りました。通常ですと東京へ仙台間は一時間半ですが、徐行運転で二時間かかりました。彼女の車で海岸の方へ行くと、

で見るよりはるかにひどい惨状で、被害の甚大さが分かりました。ボランティアの大型バスが何台も止まっていたり、自衛隊の車がぶぶん走っていたり、私は悲しい心でそれらを眺めるしかありませんでした。宿はどこも満員で、予約してくださった山の中の一軒宿へ行きませんでした。しかしこれもボランティアの方達で一杯でした。翌日、彼女達は石山寺へ連れて行ってくださったのですが、若葉の美しい季節の賑わいはありませんでした。私達に他は二、三人影しかなく、寂しいかぎりでした。私達は石山寺で一日も早い復興を祈願しました。

『15周年記念誌』より



駅からガイド 英語で…



駅からガイドの準備



小田原駅から小田原城へ



天守の改修工事（平成27年7月～翌年4月）

平成29

・インカム導入



ガイドの定番 総構(稲荷森)

平成30

・3月住吉橋架替え工事

・7月歴史見聞館閉館
(平成31年4月
NINA館となる)

・8月合戦図前ガイド実施



ガイドの定番 石垣山一夜城

平成31
令和1

・10月早川臨時観光案内所開設
レンタサイクル
荷物預かり業務開始

・11月漁港の駅
TOTOCO小田原開業



ガイドの定番 小田原城址公園



合戦図前ガイド(平成30年9月)

平成29年、企画ガイド業務にインカムが導入され、ガイドの質が向上した。令和5年1月現在、旧型(左)120台、新型(右)80台をフル稼働している。



2019年4月 早川地区研修会(神奈川県水産合同庁舎にて)



薄化粧のお茶壺曲輪土塁と梅の花(平成29年2月11日)

【記念誌再録(抄)】

箱根ジオパーク認定を目指して

NPO法人小田原ガイド協会
ジオパーク担当 真木和男

平成二四年九月二四日。箱根ジオパークは箱根火山を中心に箱根町・小田原市・湯河原町・真鶴町の地域が一体となり日本ジオパークに認定されました。

ジオは地質を意味しジオパークは地球活動の遺産を紹介する自然の中の公園であり、ジオサイトは自然の地質と人々の生活のかかわりが歴史のおよび文化的に価値ある場所を指しています。

地球博物館の笠間氏等との打合せの中で「小田原城」「小田原用水」「石垣山一夜城」および「早川石丁場」がガイド場所である旨の説明を受け、各場所のジオのポイントについてアドバイスを受けました。内容は、

- ・現地の地形と地層がどうなっているか
- ・人々は地層をどのように利用してきたか(大地と人々の関わり)の歴史をわかりやすく
- ・日常のガイドの中へ組み入れてほしい

との主旨でした。

これまで何気なく目にしてきた山や川は、歴史をつなぐ掛け橋です。お客様が大地と人間の歴史に興味を持ってもらえるよう、楽しいガイドを目指して頑張っていきたいと思っています。

『15周年記念誌』より

令和2

*コロナ感染症禍が始まる

- ・小田原城址公園 全施設閉鎖
- ・藤棚駐車場閉鎖（二名体制）
- ・マスク着用／アルコール洗浄
- ・体温測定等を義務化

・4月 養成講座開講（6月まで）

・9～10月 石垣山研修会（講師：佐々木健策氏）開催

・12月 小田原駅東口「ミナカ」営業開始

令和3

*コロナ感染症禍収まらず

- ・感染防止策の周知徹底を図る
- ・各種ガイド 軒並み中止

・7月 観光交流センター開設

・三の丸レンタサイクル業務開始

- ・夏事務所内に観光客用ウォーターサーバーを設置
- ・経口補水液「OS1」も常備

・11月 文化財建造物勉強会実施

令和4

*依然として、

- ・コロナ感染症禍の活動となる

・5月 レンタサイクル

・過去最高の貸出数を記録

- ・11月 ホームページから企画&定番予約ガイド受付開始



2011年7月から業務開始した「三の丸レンタサイクル」では、右の二機種を新たに採用した。



クロスバイク



電動アシスト付（20インチ）



2018年7月 歴史見聞館 閉館



2019年6月 銅門渡櫓にて

令和4年（2022）3月14日、養成講座第10期生の研究発表（右写真）修了式及び入会式（下写真）が行われた。



コロナ感染症禍の最中ということもあって、本来の式典より縮小して催行されたが、この年、13名の受講生が入会した。



2020年10月 石垣山〔早川石丁場群関白沢支群〕
（学芸員 佐々木健策氏 に講師を依頼しての研修）



コロナ感染症禍での養成講座実習（令和3年4月）

【記念誌再録（抄）】

歲月人を待たず

NPO法人小田原ガイド協会
会員 渡曾晃

私が入会した当初は、会長はじめ理事のほとんどの方が先輩でした。今は会長はじめ全ての役員を、優秀な後輩の皆さんが担っています。協会の景色は一変しました。シルバード大学はなくなり、協会員になる為のガイド養成講座を立ち上げ内部で養成し、最終テストに合格したエリートが会員資格を得ています。

過日久しぶりに企画ガイドの勉強会に参加しました。明治時代に活躍した政財界や文学者別荘を巡り、各担当者の説明を聞かせてもらいました。そして当協会のレベルの高さを実感致しました。何故明治維新が成功したのか？薩長や土佐の下級武士の討幕運動は何故成功し明治政府が誕生したのか？更に何故「日露戦争」に勝利する事が出来たのか？等々歴史を蘇らせてくれた勉強会でした。本番でも、参加者がもう一度歴史を勉強しようと新たな動機付けになれば、ガイド員としての喜びはひとしおでしょう。参加者が夢を膨らませるガイドが求められ、それが出来る小田原ガイド協会員の皆さんであることに高い誇りを感じました。協会員の最大の任務は小田原に来られた観光客にガイドを通して喜びと感動を与えることではないでしょうか。

『20周年記念誌』より

小田原ガイド協会だより

特集『25年のあゆみ』

NPO法人
小田原ガイド協会

小田原市城内 3-22 (〒 250-0014)
TEL.0465-22-8800/FAX.0465-22-8814

<http://www.odawara-gaido.com>

20周年以降の始業式



平成 30 年 (2018) 4月1日



平成 31 年 (2019) 4月1日



令和 2 年 (2020) 4月1日



令和 3 年 (2021) 4月1日



令和 4 年 (2022) 4月1日

■三十年へ向けて――

ゆく河の流れは絶えずして

しかももとの水にあらず

この協会も、いつの間にかシルバ―大学出身者より、養成講座で研鑽を積み実績をつけてきた若者（？）が三分の二以上となった。現状の維持は後退の一步と思える。

若者に次代をたくそう

未知数の中に常に新風は吹いている。期待してやまない。（飯沼）

【編集委員】

磯崎知可子／柏木由美子

上田信一／飯沼忠雄

*掲載写真は各記念誌からの転載。撮影者の御厚意及び、ホームページ委員会からの提供によるものです。